

# 「家庭の日」作文コンクール入賞者

毎月第3日曜日を「家庭の日」と定め、その啓発事業として「家庭の日」作文コンクールを実施したところ、次の皆さんが入賞しました（敬称略）。

生涯学習課（☎62-1036）

## 【最優秀】（6人）

「真夏の10分間チャレンジ」加藤瑠七（平成小4年）  
「お母さんへの本当の気持ち」池田來聖（平成小5年）  
「何にもない楽しい夏休み」加藤虹花（富士松北小6年）  
「これからの三年半」毛利帆那（刈谷南中1年）  
「我が家の手作りケーキ」浅井柊人（富士松中2年）  
「弟」南川つかさ（富士松中3年）

## 【優秀】（6人）

「初めてのはなればなれ」池田玲実（小垣江小4年）  
「感謝の十日間」安藤良二（衣浦小5年）  
「日記」江坂友希（双葉小6年）  
「家族」といって 畠山慶幸（朝日中1年）  
「逃げるということ」中川紗良（刈谷南中2年）  
「他界した祖父の大切さ」山内遥香（刈谷東中3年）

## 【入選】（51人）

小高奏真・加藤智乃・山田玲華（亀城小）、川口源太郎・中西虎杏・吉田歩久乃（小高原小）、山田琉捺・三輪愛輝・南幸羽（日高小）、泉こは・小嶋孝一郎（衣浦小）、佐藤匠真・矢島雅・川上僚介（住吉小）、丸岡有汰・菊谷愛華・牧野葵香（かりがね小）、平川あこ（平成小）、堤田葵心・内藤歌保・森奏陽（富士松南小）、松岡瞬太郎・神谷勇輝（富士松北小）、久米帆乃・濱村拓飛・義野蒼空（富士松東小）、長谷川葵・毛内俊介（小垣江小）、柘植煌月・細田優月・鈴木琳太郎（小垣江東小）、辻青波・田中愛羽（双葉小）、伊藤羽奏・杉浦真太郎・松山未空（東刈谷小）、北田睦美・丸山もも香・重野遥香（朝日小）、杉浦佳甫（刈谷南中）、飯村芽生・阿知波みのり（刈谷東中）、近藤舞奈美（富士松中）、加藤妃乃・中西美咲・薄井友里奈（雁が音中）、江坂茉奈・大多詠麻・石徹白騎平（依佐美中）、河合顕志良・田邊みゆ（朝日中）

## 【弟】 富士松中学校3年 南川つかさ

私には四歳年下の弟がいる。はつきり言うてしまえば、生意気な弟のことが大嫌いだ。逆に、弟も好きな家族ランキングで私のことをダントツの最下位としている。□げんかも絶えず、毎日のように母の「うるさい」というゴングが鳴るまで言い争っている。

生意気で□の悪い弟に、「ADHD」という診断が下されたのは、五年前。幼い頃から、家族みんなが弟に振り回されてきた。小学校に入れば落ち着くだろうと思っていたが、そうはならなかったため病院を受診したところ、夏休み明けに原因が分かった。母も私も、弟に対する周囲の視線が気になり、疲れ切っていたが、数あるADHDの症状の中から、「自閉症気味の多動衝動性ADHD」と診断されたことで、私たち家族は逆に安心感を覚えた。

診断されてからは、薬や私たち家族が弟の障害と向き合い、弟が将来苦労することが、少しでも減るように努力したり、支援したりすることができるようになった。

私たちは弟の真実を知っている。真実を知った上で弟と接することができる。しかし、どう考えても、私たち家族以外の人たちも、弟を見たとき、障害を持っている子どもであると気づくことはないだろう。ヘルプマークや発達障害という言葉が世の中で認知されつつあるとはいえ、弟の様子を見て不快に感じたり、懐疑的な視線を送ったりする周囲の方々がいることは間違いないし、実際に私も感じ取っている。それはきつと弟も感じていることだ。しかし、私たちの前にいる弟は、いつでも、誰にでも、明るく振舞っている。でも、きつと弟にしか分からない、彼なりの思いや辛さや苦労があるのではないかということ、なん

となくではなく、はつきりと感じている。そう考えていくと、憎たらしいと感じることが多々ある彼は、強い意志や心の強さを持ち合わせているのではないかと思いはじめた。私は、彼のようにがんばることができているか。自分を見直すきっかけともなった。

また、弟はデイサービスを利用している。学校や家庭ではできない体験をさせてもらえるデイサービスの時間を弟は気に入っており、そこで作ったコースターをめずらしく私にもプレゼントしてくれた。弟の成長や私に対してもプレゼントしてくれるような、素敵な体験ができる時間なのだと思うと、とても嬉しい気持ちになる。しかし、そこで彼の課題をまた一つ知ることとなった。数字に弱いことだ。漢字の書き取りなどの宿題は前向きに取り組むが、算数はよくサボる。話を聞いていると、時計を読む取れないことがあったり、時間を間違えたりすることが多いようだ。そういう意味でも、もちろんデイサービスの力を借りながら、家族も支えていかなければならないと思っている。

私は冒頭で弟のことが大嫌いだと書いた。好きかと言われるとやっぱり嫌いだが、弟が毎日の当たり前だとされる生活の中で苦労していることが分かった。そして、彼のペースで彼らしく成長していることにも気づいた。そして、様々な人がいて、一人一人が自分らしく生きていくことができる社会であってほしいと思うようになった。最後に冒頭の言葉を訂正して締めくくろうと思う。大嫌いだと思っていた弟だが、彼らしく、明るく振舞う、新しい一面を知ることができた弟のことが大好きだ。